

議事録		作成日	平成 23 年 12 月 14 日(水)
		作成者	ソフトバンクテレコム株式会社 山崎
会 議 名	ジャパン・クラウド・コンソーシアム 観光クラウド・ワーキング・グループ第二回		
開 催 日 時	平成 23 年 11 月 28 日(月) 14:00~16:00	開 催 場 所	ソフトバンクテレコム本社ビル 9 階会議室
参 加 団 体 ( 敬 称 略 )	総務省 / 国土交通省観光 / 日本政府観光局 / 社団法人日本観光振興協会 / 東京商工会議所 / 財団法人京都高度技術研究所 / 早稲田大学 / 京都大学 / 東京工科大学 / 独立行政法人情報通信研究機構 / 自動車旅行推進機構カーたびクラウド部会 / 株式会社ジェイティービー / 株式会社電通 / 近畿日本ツーリスト株式会社 / 東日本高速道路株式会社 / MKT-SYSTEM / 株式会社まいど日本 / 株式会社山根ドキュメンテーション / 日本写真印刷株式会社 / 株式会社 JTB コミュニケーションズ / CREATOR'S BOX ◇ / メタデータ株式会社 / 株式会社 ATR-Promotions / 株式会社ヴァル研究所 / 株式会社ニーニャス / 株式会社フォネックス・コミュニケーションズ / 株式会社日本能率協会総合研究所 / 協和テクノロジズ株式会社 / 大日本印刷株式会社 / 日本システム開発株式会社 / 株式会社A-MAX / KDDI 株式会社 / 日本ユニシス株式会社 / 日本電気株式会社 / 日本電信電話株式会社 / 富士通株式会社 / ソフトバンクテレコム株式会社		
議 題	1 開会 2 議事 (1) 課題解決のための検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 参照事例 1(東京工科大学様)</li> <li>● 参照事例 2(ATR-Promotions 様)</li> <li>● 検討範囲と体制について(事務局・討議)</li> </ul> (2) シンポジウム開催または先端的取組事例視察の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 参照事例 1(IT コンソーシアム京都)</li> <li>● 参照事例 2(九州大学シンポジウム)</li> <li>● 参照事例 3(ITU デジタルサイネージ国際 WS)</li> </ul> (3) その他 3 連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>● JCC 総会(12 月 22 日午前)</li> <li>● 次回観光クラウド WG の日程(12 月 17 日の週)</li> </ul>		

内 容	期限/担当
<p>ジャパン・クラウド・コンソーシアム 観光クラウド・ワーキング・グループ第二回</p> <p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 事務局より、本 WG にてご参加されたオブザーバーの紹介(総務省/観光庁/日本政府観光局/東京商工会議所(敬称略))</li> </ul>	<p>ソフトバンクテレコム株式会社 吉井</p>
<p>2. 議事</p> <p>(1) 課題解決のための検討</p> <p>■ 参照事例 1「観光クラウド展開へのヒント」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域観光振興のための課題解決のアプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事例 1(山中温泉「かよう亭」) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高度経済成長期に、団体旅行客から個人相手への旅館へ転換。</li> <li>• 山中の街を周遊するための仕掛けを整備し、旅館だけでなく街全体の魅力を発信してきた(Ex.お散歩号)。</li> <li>• バスガイドは旅館の女将が無償で行うなど、地域の担い手の合意が醸成されている。</li> <li>• 「全体の繁栄があって個の繁栄がある」</li> </ul> </li> <li>◇ 事例 2(産業観光広域連携) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業主体となる地域の担い手が企画書を作成した事例である。</li> </ul> </li> <li>◇ 事例 3(イン神山の挑戦:アートによる地域づくり) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業主体は公的機関ではなく地域住民であり、助成終了後は 7 年間事業が継続している。</li> <li>• ショーコスギさんの制作映画:四国霊場が舞台、地域情報やコンテンツを世界へPRする機会を得た事例。</li> </ul> </li> <li>◇ 自治体ではなく旅館などの地域の担い手が立ち上がること、広域連携の実施、そして観光資源を磨き、内外へ発信することが必要ではないか。</li> </ul> </li> <li>➤ ICT 活用事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地域観光振興のために、ICT がどのように支えるか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• クラウドサービスセンター、工科大ケータイ、拡張現実による迷子探索システム、Android デジタルサイネージ事業など。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>➤ まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事業主体の担い手となる地域の方々が主体性を持つことが重要。現状、主体となる地域の担い手が少なくベンダーや自治体が多いことが課題。</li> <li>◇ 地域全体で観光資源を磨き、情報を発信し、薄く広くコストをシェアするような体制を取れば、ビジネスに近づくのではないか。</li> <li>◇ インターネットや携帯を利用してどのように多様な情報を発信するか、誰にでも利用できる ICT 環境の整備が重要ではないか。</li> </ul> </li> <li>➤ 質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ (質問 1)紹介があった太陽光利用サーバは晴天時であれば常時稼働可能なのか？</li> <li>◇ (回答 1)本年 11 月頭よりノンストップで稼働している。鉛蓄電池を採用。</li> </ul> </li> </ul>	<p>東京工科大学 小川様</p>

## ■ 参照事例 2「ちずぶらり」

## ➤ 「ちずぶらり」アプリケーション(英語名: Strolly)の紹介

## ◇ 概要

- 古地図、パンフレット、鳥瞰図、風景画、商店街などのイラストマップ上に GPS 情報を付与する。
- iPhone、Andoroid アプリケーションに対応。

## ◇ アプリケーション紹介

- 「神保町ちずぶらり」:古書店マップ、8 世紀後半の古地図、大学生が作成したグルメマップとの切り替えが可能。
- 「横浜マップ」:昭和 30 年頃の市街地に古いランドマーク情報を掲載。手書きマップ(父と娘のデートマップ)の表示も可。
- 「大阪あそ歩」:150 枚の作成した街歩き用地図のうち、50 枚をアプリに組み込む。
- 「宇治イラストマップ」:多言語対応で無料ダウンロード配布。印刷代が発生せず、主催者より好評を頂いている。
- 「初三郎ぶらり」:絵師吉田初三郎の鳥瞰図との連携。著作権が切れているため扱いやすい。図書館や資料館に保存されている資料をデジタル化。
- 地域の方々がオンライン上で地図を編集するためのツールを提供、直接クラウドサービスへのアップロードが可能となっている。アプリからクラウドに登録したコンテンツを参照。
- 「高遠ぶらり」:実際に歩きながら相談して決めたランドマーク情報や資料を古地図へ反映していく(地域ジェネレイテッドメディア)
- 「高遠ぶらりい」:端末アプリに表示されるランドマークスポットを歩いて目指す体験イベント。スポット地域関連情報が取得できる。
- 「震災記憶地図」:ユーザの誰もがコンテンツ登録可能。一旦ダウンロードすれば、オフラインでも利用できる。

## ◇ 今後はクーポンや広告との連携も視野に入れている。

## ➤ 質疑応答

- ◇ (質問 1)手製の地図の著作権はどのように処理されているのか？
- ◇ (回答 1)古地図は著作権が切れたものを使用、一方デジタル化された地図は個別に借用書などの形式で契約している。現在の地図は、著作者へ確認を取っている。
- ◇ (質問 2)にこにこ動画のようにユーザがコンテンツへ書き込めるような仕組みはあるのか？
- ◇ (回答 2)クローズドベータ版として公開予定。その中ではグループ同士で、ランドマーク情報を付加し、また地図を追加することが可能。
- ◇ (質問 3)マップと緯度経度情報の割り付けはアプリ開発者が実施しているのか？
- ◇ (回答 3)委託されれば ATR-Promotions にて実施、提供中のエディターを利用すれば、主催者側でも割付可能。

<p>■ 『観光クラウド WG』検討体制について</p> <p>➤ 資料 4「主な活動予定」(事務局案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 第 8 回までの WG の開催スケジュール案、及びテーマ案を事務局より提示。</li> </ul> <p>➤ 資料 5「観光の課題(対外国観光人)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 海外の外国人を日本へ呼び込むためにどうしたらよいか、という観点 が抜けているのではないか。</li> <li>◇ 海外で日本に対する興味をいかに喚起してもらうか(STEP1)、そこで日 本に行きたいという興味をいかにもってもらうか(STEP2)、実際に楽しん でもらい、また日本に行きたいといかに思わせるか(STEP3)。このサイク ルが回れば、事業が活性化するのではないか。</li> <li>◇ 前回 WG で提示された課題(観光統計情報関連、被災地復興など)項目 を、ステップごとに当てはまりそうな箇所に記載。</li> </ul> <p>➤ 観光庁本宮様からのご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 観光庁としても無料の Wi-Fi 接続環境を、空港・港湾施設等で広げて行 きたいと考えている。</li> <li>◇ 306 箇所ある V 案内所(ビジットジャパン案内所)でも同様の取り組みを 実施したい。また V 案内所 WG にて実施したアンケートでは、外国人が 一番困ったことの第 1 位がインターネット接続環境であった。さらに観光 案内所に求めるのも同様であった。</li> </ul> <p>➤ 資料 6「『観光クラウド WG』検討体制について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ P2) 観光クラウド WG のゴールの一つは、観光事業者が低価格で効率的 に観光サービスの提供ができる「観光クラウド」モデル作りの検討。モ デルの導入により、外国人観光客の増加、地域活性化につなげることを 目標とする。</li> <li>◇ P3) 責任ある数値目標は持たないが、Visit Japan が掲げる訪日外国人 旅行者数 3000 万の目標に貢献していく。</li> <li>◇ P4) アウトプットとして、提言書を作成する。</li> <li>◇ P6) 目標達成までのステップ(STEP1 情報収集、STEP2 課題検討、 STEP3 具体化)がある。本 WG は STEP2 の課題整理に位置づけられ ると考えている。</li> <li>◇ P7) これまでの流れとして STEP1 の情報収集は概ね実施済み、ただし 「震災後の観光状況の把握」についてはまだ議論されてない。今後も WG 毎に 2~3 事例の取り組みをご紹介頂きたい。またメーリングリスト を活用し積極的な議論を実施していきたい。</li> <li>◇ P8) 事務局案として分科会案を提示、事務局として案 1 を推薦したい が、様々な切り口があり簡単に決められない。</li> </ul> <p>➤ 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ (質問 1) 観光コンテンツの流通関連にある、コンテンツ所有者と情報発 信者の立場の違いは、具体的に何を上げようとしているのか？</li> </ul>	<p>ソフトバンクテレコム株式会社 高橋</p> <p>日本ユニシス株式会社 南様</p> <p>観光庁 本宮様</p> <p>ソフトバンクテレコム株式会社 高橋</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ (回答 1) プラットフォーム提供者にとって、コンテンツは低価格で集め、エンドユーザーへ提供したいと思う一方で、コンテンツホルダーにとっては、コンテンツは財産であり、簡単には提供できない。それらの立場の違いを取りあげている。</li> <li>◇ (質問 2) 案 3 や 4 で、質問 1 の課題が翻訳や通訳関連と一緒にしているが関連があるのか？</li> <li>◇ (回答 2) 著作権には、コンテンツを翻訳してよい翻訳権と、翻訳コンテンツ自身の著作権があるため、質問 1 の課題と関連づけている。</li> <li>◇ (質問 3) 8 つの課題を同時に解決する必要があるのか？ 急ぎのもの、後回しのものがあるか？ 見受けられるが。</li> <li>◇ (回答 3) まさにその通りで、事務局としてもそのような意見を期待している。</li> <li>➤ 自動車旅行推進機構 堀田様のご意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事務局案 1 が、妥当性が高いかと思う。なぜならば上段、下段 4 つのテーマがあるが、この取り方は、どこに論拠を置くかで大小が様々である。また目標と目的も様々である、なので枠は大雑把なほうがよい。案 2 以降は課題が 20、30 にも分かれてしまう可能性があり、それらはまた一つにまとめないと使い物にならない。いずれにせよ事務局案 1 が良いのではないか。</li> </ul> </li> <li>➤ 12 月 22 日の JCC の総会にて、観光クラウドの状況を説明する機会があるので、メーリングリスト等を活用し、決めていく方針とする。</li> </ul>	<p>自動車旅行推進機構 堀田様</p>
---	--------------------------

## (2) シンポジウム開催または先端的取組事例視察の検討

## ■ 参照事例 1「観光の情報化を目指す京都の取組み～観光情報基盤～」

- IT コンソーシアム京都の概要
  - ◇ 平成 18 年に設立。産学公が連携し、京都の持つ特性を活かして、IT の利活用による京都府域の発展と産業の活性化を図る。
  - ◇ 観光情報基盤検討部会を設置、その他に観光の情報化を進めるための議論など、具体的な議論を実施するバーチャルラボを設置。
  - ◇ 観光産業の識者を招いた様々なイベントを実施している。
  - ◇ 京都で実施された様々な実証実験がビジネスとして回らないのが課題である。部会・バーチャルラボの今後の目標としては、京都府に対して、観光のための情報化戦略を提案していく。
- 前提の変化・環境の変化
  - ◇ 観光自体の前提が変化している。ほとんどが個人旅行で、多国籍化が進んでいるまた、情報メディアもインターネットへシフトしている。
  - ◇ 観光情報を、ブログや口コミを通して自分で集め、旅行者は Twitter や Facebook にコメントを投稿し発信するようになっている。
- 変化に対応したアクションとして、以下の取り組みを検討
  - ◇ 海外旅行者による情報発信の機会を上げるためのインターネット接続の環境整備。
  - ◇ ライフログを利用した滞留地の抽出手法(外国人による観光資源(長野の地獄谷温泉)の発掘事例がある)。
  - ◇ 観光コンテンツの利活用法。
- 今後の観光情報基盤の推進体制～検討の場から推進の場へ
  - ◇ 様々な企業と共同でプロジェクト推進の場をつくり、京都市、観光団体に向けた提言をあげていく。

<p>■ <b>参照事例 2「Smart Life Innovation@Island City 参加報告」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 福岡市の博多湾に最先端のテクノロジーや建物を集めた新しい街づくりを建築中、それに対して情報がどのように貢献するかを議論。</li> <li>➤ 福岡アイランドシティ (<a href="http://island-city.city.fukuoka.lg.jp/">http://island-city.city.fukuoka.lg.jp/</a>)</li> <li>➤ 議論した中でキーワードの紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ メディアデモクラシー <ul style="list-style-type: none"> <li>• iPhone Movie:iPhone のみを利用して映画を制作し、ハリウッドで上映された事例。</li> <li>• Facebook を活用したマスプロダクション:アニメのコマ割りはプロが実施し、FaceBook 上へ公開。世界上のクリエイターが一つのアニメ作品を完成させた事例。</li> <li>• Water flavor:日本のミュージシャンがプロモーションビデオを、ネット上でグローバルに制作した事例。</li> </ul> </li> <li>◇ メディアが誘発する観光 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 聖地:お伊勢さん、アニメや映画。</li> <li>• 今後はプログラマーがデジタル作品を作り、聖地を作る。</li> </ul> </li> <li>◇ スマートクラウドとビッグデータ</li> </ul> </li> <li>➤ 「Asia Digital Art Award 2010」の大賞受賞作品の紹介(時間の都合により割愛)</li> </ul>	<p>ソフトバンクテレコム株式会社 吉井</p>
<p>■ <b>参照事例 3「ITU デジタルサイネージワークショップ」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 総務省の情報通信審議会の情報通信分野の標準化施策のあり方にて、デジタルサイネージが国際標準戦略の一つと位置づけられたことを受けて、今年の3月より、ITUに対して標準化の提案を開始した。</li> <li>➤ ワークショップを平成12月13日(火)～14日(水)@秋葉原にて開催。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ デジタルサイネージの導入状況の紹介や現場を回るツアーも企画。</li> <li>◇ 事前にWeb登録が必要。スポンサーも募集中である。</li> </ul> </li> </ul>	<p>日本電信電話株式会社 村本様</p>
<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 特になし。</li> </ul>	<p>-</p>
<p>(4) 連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ジャパン・クラウド・コンソーシアムの総会が12月22日に開催予定。</li> <li>➤ 次回の観光クラウドWGは、12月17日の週に開催予定。特段ご意見・要望等がなければメール開催としたい。</li> <li>➤ メーリングリストを登録するためのメールを本日または明日までに送付する。</li> </ul> <p>以上</p>	<p>ソフトバンクテレコム株式会社 高橋</p>